

## 玉名高等学校(定時制)令和6年度(2024年度)学校評価計画表

1 学校教育目標																								
(1) 教育スローガン 「健康・礼儀・努力・継続」～何事にも一生懸命頑張る玉高生～																								
ア 「健康」健やかな体、豊かな心（読書）、確かな学力																								
イ 「礼儀」礼に始まって礼に終わる（校門一礼）、挨拶、時間厳守、掃除、感謝																								
ウ 「努力」努力に勝る天才はなし 目標達成、感動、笑顔																								
エ 「継続」継続は力なり 当たり前のことを当たり前に																								
(2) 玉名高校生に身につけさせたい「9つの資質・能力」																								
<table border="1"> <thead> <tr> <th>校訓</th> <th>至誠 (誠実さ)</th> <th>剛健 (たくましさ)</th> <th>進取 (先進性)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>資質・能力</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>知識・技能</td> <td>① 肯定力</td> <td>② 挑戦力</td> <td>③ 探究力</td> </tr> <tr> <td>思考力・判断力・表現力等</td> <td>④ 想像力</td> <td>⑤ 持続力</td> <td>⑥ 協働力</td> </tr> <tr> <td>学びに向かう力、人間性等</td> <td>⑦ 貢献力</td> <td>⑧ 突破力</td> <td>⑨ 創造力</td> </tr> </tbody> </table> <p>「至誠」人として正しい生き方をわきまえ、自分がなすべきことを全うする人となれ  「剛健」物事に屈しない強く確かな意志を持ち、ゆるぎない信念に燃える人となれ  「進取」正しいことに進んで挑戦し、率先して模範を示す気概のある人となれ</p>					校訓	至誠 (誠実さ)	剛健 (たくましさ)	進取 (先進性)	資質・能力				知識・技能	① 肯定力	② 挑戦力	③ 探究力	思考力・判断力・表現力等	④ 想像力	⑤ 持続力	⑥ 協働力	学びに向かう力、人間性等	⑦ 貢献力	⑧ 突破力	⑨ 創造力
校訓	至誠 (誠実さ)	剛健 (たくましさ)	進取 (先進性)																					
資質・能力																								
知識・技能	① 肯定力	② 挑戦力	③ 探究力																					
思考力・判断力・表現力等	④ 想像力	⑤ 持続力	⑥ 協働力																					
学びに向かう力、人間性等	⑦ 貢献力	⑧ 突破力	⑨ 創造力																					

2 本年度の重点目標				
定時制教育活動取組のテーマ 「夢実現・未来への挑戦」				
(1) 健全な心身の育成				
ア 教育環境を整備し、生徒の健康・安全教育を徹底する。				
イ 体験学習・インターンシップ等を通じて、職業観・勤労観を育成する。				
ウ 特別活動や総合的な探究の学習の充実により、豊かな情操と人権を尊重する心を育てるとともに生命を大切にする態度を育成する。				
(2) 学力の向上と進路指導の充実				
ア 一人一人の学力や個性に応じた「わかる授業」を実践し、基礎学力を定着させる。				
また、「玉定チャレンジ」等の個別指導を充実させ、自学できる生徒を育てる。				
イ 授業時数確保と、出席率向上に努める。特に学校行事等への積極的な参加を促す。				
ウ キャリア教育や面談等を通して就業を促し、早くから将来の目標を設定させ、夢実現に向けて最後までやりきろうとする姿勢を身につけさせる。				
(3) 地域や保護者に信頼される学校づくり				
ア 仲間意識を高めるとともに、自己有用感を高め、一人一人に自信と誇りを持たせる教育を実践する。				
イ 愛情と情熱を基調とした職員・生徒間の信頼関係に立ち、生徒とともに成長する姿勢で日々の教育実践を行う。また、教育者としての使命と責務を自覚し、教員同士が教え合うことで力量を高めていく。				
ウ 地域の特性を理解し、中学校との連携や地域の資源を活用した教育実践を進める。				

3 自己評価総括表					
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価
大項目	小項目				
学校経営	安心・安全な学校づくり推進	施設の安全確保と緊急時の安全確保	安全点検による確認と危機管理マニュアルによる安全意識の向上に取り組む。	①安全点検表で年2回確認し、危険箇所はすぐに改善する。 ②救急救命講習や防災訓練等を実施し、緊急時対応を確認する。	A
	業務改善・働き方改革	I C T やデジタル採点システムを活用した業務の効率化と校務の平準化	① I C T を活用して業務の効率化を図る。 ②校務の平準化を図り負担を軽減する。	① I C T 職員研修でスキルアップを図る。特にデジタル採点システムを活用して採点業務を効率化する。 ②見直した校務分掌の改善状況を検証して次年度に繋	B

				げる。		しかできない。
学力向上	授業の充実	公開・研究授業の実施と授業評価の充実	①基礎学力向上を根底に据えた「わかる授業」や「主体的・対話的で深い学び」の実現する授業作りに努める。 ②授業評価を充実させて授業改善を進める。	①公開・研究授業を積極的に行い、助言や意見交換を通じ、自己研鑽に努める。 ②生徒アンケートや職員の意見交換をふまえて、授業や年間計画の検証・分析を深める。	A	【成果】 公開授業を参観した中学校や外部団体からのフィードバックを授業改善に繋げることができた。 【課題】 授業評価アンケートの結果を踏まえた授業改善を、いかに次年度に繋げられるか。
	個に応じた学習指導	きめ細かな指導の充実	生徒の進路目標や授業における到達度を把握し、生徒の状況に応じた指導方法の工夫・改善に取り組む。	教科担当者が授業評価で指導状況を見直し、生徒の到達度を踏まえたわかる授業を実践する。		【成果】 生徒理解研修により生徒の状況を教科担当者が共通理解し、個別指導がより充実した。 【課題】 I C T研修を通して、生徒の能動的学習活動を工夫すること。
キャリア教育(進路指導)	進路意識の高揚	進路目標設定の取り組み	①卒業予定者の100%の進路先決定を目指す。 ②各種の資格取得を促し、生徒の達成感を体感させるとともに自己肯定感を向上させる。	①担任と連携して面談を重ね、各種説明会への積極的な参加を促すなど就業意識の向上を図る。 ②進学予定者をはじめ個別に面談を行い、玉定チャレンジへの参加を促す。資格試験情報は、担任を通して生徒へ伝え受験を促す。	B	【成果】 各就職説明会へ参加を促し、高卒求人へ応募した生徒2名が内定できた。玉定チャレンジで学力向上、資格取得に向けて生徒が取り組んだ。 【課題】 卒業年次の生徒は学卒求人への意識が低くアルバイト継続に傾く生徒がいる。
	キャリア教育の推進		①個別面談等を通して就業を促し、就業率70%を目指す。 ②生徒がより広い視野で自分の進路を考え、具体的な希望を持ち、進路意識が高まった状態を目指す。	①公共職業安定所からの求人情報を随時提供する。特に未就業者にはインターンシップへの参加を促す。 ②職業講話やガイダンス（就職・進学）を実施し、生徒の意識向上を図る。		【成果】 進路ガイダンスと就職ガイダンスを実施し、就業意識の向上につながった。 【課題】 インターンシップは1日だけの参加となつた生徒もいた。定時制ではインターンシップが難しい生徒もいる。
生徒指導	心豊かな人格の育成	基本的生活習慣の育成と自主自律の精神の育成	①丁寧な挨拶、時間の厳守、問題行動の未然防止につとめる。 ②喫煙・飲酒等の問題行動、盗難事案発生件数「0」を目標に取り組む。 ③生徒会執行部を中心に各種行事の企画・運営を充実させる。	①全職員の共通理解と情報の共有、共通実践で取り組む。 ②家庭と連携を図り、問題行動に対して早期対応に努める。 ③生徒指導部と生徒会が企画し全職員・全生徒で取り組む。	B	【成果】 ②担任を中心に生徒、保護者との連携を密に図り、教育活動を進めることができた。 ③各種行事における生徒会執行部の充実した活動があった。 【課題】 ①特別指導事案はなかったが、挨拶の励行や時間厳守ができていない場面もあった。
	交通安全教育の徹底	交通安全意識の向上	①交通安全教室を早期に実施し、交通事故事案の発生件数「0」を目標に取り組む。 ②交通指導を徹底	①生徒指導部が企画・立案し、玉名警察署と連携して実施する。 ②日々の登校指導で交通指導・挨拶		【成果】 交通安全教育では記録ビデオを鑑賞し、交通安全に対する意識の向上に効果が得られた。 【課題】

			させる。	運動に取り組む。		今後も日々の登校指導で交通指導・挨拶運動を継続していく。
人権教育の推進	推進体制の機能強化	職員研修の推進	全職員で研修に計画的に参加することで人権意識の向上と適切な対応能力を身につける。	人権・特別支援教育委員会が研修を企画・立案し、全職員が参加する。	A	<p>【成果】</p> <p>職員研修や校外研修にすべての職員が参加して意識が向上した。</p> <p>【課題】</p> <p>職員研修について感想等から今後の研修の内容の修正・検討を図る必要がある。</p>
	命を大切にする心を育む指導の充実	ホームルーム活動、教科指導における取り組みの推進	ホームルーム活動、各教科において命を尊重する題材に取り組む。	人権・特別支援教育委員会が計画して、事後の改善をする。	A	<p>【成果】</p> <p>3回の人権教育で人権意識の啓発、他人への思いやり、自己肯定感の育成を図った。機会をみて相談することの重要性を訴えた。</p> <p>【課題】</p> <p>命を大切にする心を育成するために有効な内容について常に検討する。</p>
いじめの防止等	いじめの未然防止と早期発見・迅速かつ適切な対応	いじめを防止するための日常的な取組、起きた時の適切な対処	①生徒が互いを思いやり、認めあう人間関係を作り、いじめを見逃さない体制を作る。 ②いじめが起きた時には迅速に、適切に対処する。	①ホームルームや生徒会活動で仲間作りを目的とした活動を実践する。 ②いじめの早期発見のためアンケートを実施する。いじめがあった場合は情報集約担当者を中心に迅速かつ適切に対処する。	A	<p>【成果】</p> <p>機会をみて相談することや思いやりの心を持つ重要性を話し、いじめ等の防止を図った。いじめ事案は現在のところ起きていない。</p> <p>【課題】</p> <p>特性のある生徒への理解・対応をより一層深める必要がある。</p>
	家庭との連携強化	家庭への啓発の推進	人権教育講演会などで保護者・地域への啓発を図る。	人権教育講演会を保護者に周知し、参加を促す。	B	<p>【成果】</p> <p>ホームページで講演会等の内容を掲載して情報の発信を行った。</p> <p>【課題】</p> <p>事前に保護者への周知はできなかったが、次年度はすぐ一歩を活用する。</p>
地域連携(コミュニティ・スクールなど)	育友会との連携	育友会総会・学校行事での連携の充実	育友会総会や学校行事について、育友会と事前に話し合い、円滑な運営と連携をめざす。	育友会総会や小岱山一周大会では十分に連携して充実させる。また育友会だよりの発行を通して定時制の情報を積極的に発信する。	B	<p>【成果】</p> <p>文化祭や小岱山一周大会への保護者の協力により、充実した学校行事となった。</p> <p>【課題】</p> <p>ブログを通して情報発信は行ったが活性化までには至らなかった。</p>
	開かれた学校づくり	関係機関との連携	様々な教育活動の場面において、関係機関との連携が図れた状態をめざす。	上級学校（大学等）や職業安定所、地元自治体（玉名市他）との連携を強化する。	B	<p>【成果】</p> <p>生徒に外部講師を招く教育機会を設けた。専門性が生かされた充実した内容となった。</p> <p>【課題】</p> <p>特性のある生徒を適切な外部機関につなげ、不本意感を解消すること。</p>

特別支援教育	特別な支援を必要とする生徒への適切な対応	個々の生徒の正確な実態把握と支援	支援の必要な生徒に対して支援計画・指導計画を作成し活用する。各種研修への参加や校内研修の実施。	特別支援教育コーディネーターが中心となり、連絡会等を利用し、困り感を持つ生徒を全職員で支援する。	B	【成果】 個別の支援計画を作成し情報共有を図った。また職員研修によって外国ルーツの生徒への指導に役立てた。地域の関係機関と連携して支援できている。 【課題】 個別の支援計画と指導計画をより積極的に活用すること。
保健環境教育	健全な心身の育成	自らの健康状態に関心を持てるようになる。	①健康診断の全員受診と治療率を上げる。 ②各関係機関と連携し、計画する。	①健康診断終了後の治療勧告を早めに配付する。また保健便りの発行や生徒集会時に受診を促す。 ②各関係機関に依頼し、薬物乱用防止、性教育、食育講座を開催する。	B	【成果】 健康診断を早めに実施したことで、集会時に例年より早く生徒への受診を呼び掛けた。また地域と連携して各種講演会を実施できた。 【課題】 健康診断後の事後措置がなかなか進まない。
	環境美化と環境教育の推進	美化意識を育成する。	学校版環境 I S O の目標達成や清掃の時間を設けて職員も一緒に清掃活動をすることにより、環境美化の行動化を図る。	補食の牛乳パックのリサイクルを継続する。また定期清掃での意識付けと行動化を図る。	B	【成果】 牛乳パックのリサイクルは継続できている。職員清掃は定着している。 【課題】 生徒清掃は取組に差があり課題である。

#### 4 学校関係者評価

- (1) 義務教育においても自閉症等の診断がある生徒への対応に苦労している。このような子どもたちが卒業後の未来がどうなっているのか大変心配していた。不登校・中途退学者、特別な支援を要する生徒、経済的な困難を抱える生徒に対して、きめ細かな対応をされていることがわかった。これからも個々の実情に寄り添った支援を継続して行っていただきたい。
- (2) 4年生の進路未決定者に対して、ハローワークや若者就労サポートセンターの協力を得るなど、多様な生徒さんの進路保障のための取組は非常に評価できる。
- (3) 学校評価アンケートにおいて、「玉名高校定時制に入学してよかったです」と回答した生徒が88.0%、保護者が100%という数値であり、学校の取り組みの成果であると考える。ただ、そう思わないと回答している生徒も存在するので、なぜそう考えるのかを解消することで、よりよい教育につながるのではないか。
- (4) バイク通学を許可する前に、自動車学校で講習会を開催されている学校がある。バイク事故の未然防止につながるのではないか。
- (5) 全日制・定時制・附属中学校があることは、他校にはない強みである。この特長を生かした取り組みを行ってもらいたい。また、玉名地区の3つの高校で本日と同様な意見交換を行うことで、他の地区にはない特色を出すことができるのではないか。
- (6) 多様な生徒が学んでいる中で様々な取り組みをされ、成果をあげられています。定時制の取り組みを学校のホームページで発信されているが、多くの人にわかるような工夫していくことで、定時制の取組みを知っていただけるのではないか。

#### 5 総合評価

##### 【学校経営】

校務分掌の見直しにより校務が平準化し、教職員の負担軽減につながった。I C Tに関する専門的な業務は一部の教職員に偏っているので、できることから改善する必要がある。危機管理マニュアルの活用頻度を高め、緊急時のスムーズな対応につなげる必要がある。

##### 【学力向上】

I C Tに関する職員研修を実施したこと、『個別最適な学びと協働的な学び』を実現する授業改善に繋がった。年2回の授業評価アンケートの結果を踏まえた授業改善と生徒の能動的学習活動を工夫する必要がある。

##### 【キャリア教育】

上級学校や職業安定所と連携した進路ガイダンスや就職ガイダンスの取り組みにより、生徒の就業意識の向上とインターンシップへの参加につながった。就業率60%を超えており、6割の生徒は『働きながら学ぶ』ことを実践できている。4年次生に対して個に応じた就職

支援を行っているが、アルバイト継続に傾く生徒に対する粘り強い支援が必要である。

#### 【生徒指導】

毎日の登校指導や補食指導、健康観察を行い、生徒の変化を見逃さない指導を心掛けた。また担任と保護者との連携により、的確な指導が行えた。自家用車・バイク通学生に対して日頃から指導することにより、交通関連法規の順守や交通安全に対する意識が向上した。

#### 【人権教育の推進】

年間計画にそった職員研修により、教職員の人権意識と対応能力を高めることができた。人権教育に関するホームルーム活動では、生徒の発達段階に応じた取り組みにより、人権意識の啓発、他人への思いやり、自己肯定感の向上につながった。

#### 【いじめ防止等】

毎日生徒の情報共有を行い、個に応じた丁寧な対応を行った。年3回の心のアンケートを実施したが、仲間づくりを意識した生徒会活動により、本年度もいじめ発生件数は0であった。地域人材を活用した人権講演会を行ったが、身近な差別に気づくことができた。

#### 【地域連携】

学校行事終了後速やかに『定時制ブログ』を更新し、教育内容の情報発信を心掛けた。また地域人材を活用した食育や性教育など専門性が生かされた充実した内容となつた。

#### 【特別支援教育】

個別の支援計画に基づく職員研修等により、特性のある生徒の困り感に対して全職員で支援することができた。またS Cや外部機関と連携した組織的な対応を行うことができた。

#### 【保健環境指導】

生徒のリサイクルに対する意識付けはできているが、清掃への取組は個人差がある。健康診断後の事後措置が進まない現状があり、保護者と連携して早めの受診を促す必要がある。

## 6 次年度への課題・改善方策

### (1) 基本的な生活習慣の育成と自主・自立の精神の育成

生徒会活動の運営方法を工夫することで学校行事が充実し、自他を認め、人と豊かに関わろうとする態度が育っている。しかし、時間や期限を守ること、挨拶をすること、言葉遣い等に課題がある。よって、ホームルームでは担任・副担任、登校指導・補食指導等では全職員で、個々の生徒の特性に配慮しながら、丁寧な指導を行う必要がある。

### (2) キャリア教育のさらなる充実

1年次生から進路ガイダンスやインターンシップ等の就労体験等への積極的な参加を促すなど、生徒の進路目標実現に向けた計画的な取り組みは実践できている。適性が分からず前に進めない生徒やすぐに就労先をやめる生徒が存在する。職業安定所や地元の就労サポートセンターをはじめ早い段階から連携し、100%の進路決定を実現する取組を強化する。

### (3) 配慮を必要とする生徒への対応

個別の支援計画に基づいた生徒理解研修やS Cや医師をはじめとした外部機関と連携してケース会議を開き組織的な対応を行ったが、改善しないケースもあった。今後も生徒と保護者と密に連携しながら、粘り強く生徒に寄り添う指導を行っていく。

### (4) 保護者との連携

欠席や学校でのちょっとした変化など、担任は保護者と電話連絡や家庭訪問をするなど丁寧な対応を心がけている。保護者の『すぐーる』の早期登録を促し、情報発信やアンケートの回収、通知票の発送に有効活用できるように改善する。